

平成16年度に実施した普及啓発活動

事 項	期 間	概 要	内 容	備 考
プレス発表	6/4	キャンペーンテーマ決定	●“HIV”と“エイズ”の違い、知っていますか？	
新聞突き出し	6/14～6/20	産経(6/15)朝日(6/16)西日本・北海道(6/17)読売・中日東京(6/18)	●「ストップエイズ」“HIV”と“エイズ”の違い、知っていますか？ ・今、日本で「エイズ」が増え続けています。昨年一年間で、新たに、976人(過去最高)のHIV感染者/AIDS患者の報告がありました。 ・感染原因の95%は性的接触によるものです。感染予防の為にコンドームを正しく使用しましょう。 ・全国の保健所では、HIV抗体検査を「無料」「匿名」で実施しています。	政府広報
プレス発表	6/25	ポスターコンクール募集	●テーマ：あなたが“エイズ”について考えたこと	
モバイル携帯端末	6/28～7/4	iモード、EZweb、J-sky共通の公式サイト「The News」を利用	●知っていますか？エイズのこと ・今、日本ではエイズが増え続けています。感染のほとんどが性行為によるものです。感染予防にはコンドームを正しく使しましょう。保健所では無料匿名検査を実施しています。	政府広報
電光板ニュース	6/28～7/4	全国11都市の電光板ニュースを活用	●今、日本でエイズが増え続けています。感染予防にはコンドームを正しく使しましょう。保健所では無料匿名検査を実施しています。	政府広報
オンライン広報通信	7月号		●知っていますか？HIV・エイズのこと (エイズに関する基礎知識について)	政府広報
テレビ番組	7/12	iモード、EZweb、J-sky共通の公式サイト「The News」を利用	東京のインターネット放送局(OurPlanetTV)の映像作品コンテストの模様を紹介 ●省パート ・昨年一年間の報告数が過去最高だったこと ・その95%が性的接触によるものであること(誰にでも感染の可能性があること)	政府広報
にっぽんNOW	7/19	関東(1都3県)と大阪・兵庫・京都は毎日と日経、名古屋は中日と日経に折り込み	●「人ごと」ではありません!!HIV/エイズ 正しい知識を身に付け予防を (特に東京・大阪・名古屋で実施している検査について)	政府広報
夏の陣	7/25	渋谷ハチ公前	●日向琴子先生書き下ろしリーフレットの配布 ●“STDとかエイズのこと 知ってる?”うちわ配布 ●飯島愛メッセージビデオのシンクロ放映(渋谷3ビジョン) ●109、ピーチジョン、リーバイス、ボディショップ、クラブエイジア、角海老宝石ボクシングジム(ボクシング世界チャンピオン:イーグル京和)とのタイアップ	
Cabinet	8/1		●「世界エイズデー」ポスターコンクールのお知らせ	政府広報
ラジオ番組・CM	8/7	中山秀征の愛してJAPAN! 東京FM/(土)9:30～9:55	●ゲスト:岩室紳也先生/コメント出演:小池栄子	政府広報

平成16年度に実施した普及啓発活動

事 項	期 間	概 要	内 容	備 考
テレビCM	8月～2年間		● “もう 自分事！ ストップ・エイズ”	政府広報
にっぽんNOW	11/15	関東（1都3県）と大阪・兵庫・京都は毎日と日経、名古屋は中日と日経に折り込み	● 増え続けています「エイズ」正しい知識をもって予防を（特に、12月1日の世界エイズデーについて（11月28日の六本木イベント告知））	政府広報
雑誌広告	11/24	レディスコミック「恋愛白書パステル」付録に4ページ掲載	● “HIV” と “エイズ” の違い、知っていますか？	
ラジオ番組・CM	11/27	中山秀征の愛してJAPAN！東京FM／（土）9:30～9:55	● コメント出演：飯島愛	政府広報
ラジオ番組	11/28	グッドモーニングジャパン TBSラジオ／（日）8:30～9:00	● DJ：東ちづる／ゲスト：岩室紳也先生	政府広報
レッドリボンキャンペーン2004	11/28	六本木ヒルズアリーナ・「umu」	<ul style="list-style-type: none"> ● トークショー（飯島愛、照英、岩室紳也、長谷川博史） ● クラブエイジアとのタイアップ（ライブ、ダンスパフォーマンス） ● ポスターコンクール表彰式（テリー伊藤） ● ブース（リーバイス、ボディショップ（レッドリボンソープアート）、MTV、デュレックス（レッドリボンツリー）、ジャンププラス、東京都、みなと保健所） ● umuでのHIV抗体検査（迅速検査） ● 朝日新聞作成ブックレット ● 朝日新聞全面広告（イベント告知・採録） ● テレビCMによるイベント告知（テレビ朝日） ● Yahoo!トップページにレッドリボン特設ページ ● Yahoo!リサーチによるアンケート 	
オンライン広報通信	12月号		● 「世界エイズデー」について	政府広報
モバイル携帯端末	12/6-12/12	iモード、EZweb、J-sky共通の公式サイト「The News」を利用	● HIV（エイズウイルス）に感染しない方法 ・ HIV感染予防の鉄則は、性行為の時にコンドームを正しく使うこと。それから、やっぱり検査も大切！全国の保健所で無料・匿名でHIV抗体検査が受けられます。	政府広報

国民向けエイズ広報の普及に関する調査

(単位：%)

エイズ予防啓発広報	見ない	見た	その他
車体広告（電気自動車）	92.5	2.4	5.2
雑誌「smart」あるいは「JJ」	89.1	3.3	7.6
雑誌「POPTEN」	95.8	1.0	3.3
電車内広告（東京山手線／大阪環状線）	86.8	5.2	8.0
京浜地区	77.2	6.7	16.1
屋外広告板	91.8	2.4	5.8
東京都ポスター（マサト）	90.3	3.9	5.8
京浜地区	72.5	11.4	16.1
東京都ポスター（感染増加）	95.2	1.4	3.4
テレビCM（サッカー日本代表）	74.6	13.4	12.0
携帯電話での啓発広報	94.8	0.3	4.9

* 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 主任研究者：市川誠一

自治体における普及啓発の主な取組
〔一般国民（P T A・企業研修）〕

○ P T A

A 自治体	講演会の実施（対象：保護者、養護教諭、保健所職員、区市町村職員、民生委員等）
B 自治体	<p>◇地域の学校、医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政が関わるエイズ対策推進協議会では、中学生の親、教師を交えたセミナーを連続で企画。</p> <p>◇すこやか親子21による思春期対策の一環で、講演会なども企画。</p> <p>◇保健所と連携した学校での性教育（総合教育の中でのエイズ、性感染症予防）は保護者にはオープンにしている（が参観は少ない）。</p> <p>◇小中学校のP T Aの勉強会などには、健康教育の要望があれば随時応えている。</p>
C 自治体	学校へ講師を派遣して、生徒、教師、P T Aを対象に講演をしている。
D 自治体	教育委員会と連携をとり、協力校（小中学校）を選定してもらい、生徒・教職員・保護者を対象に講演会を実施。

○ 企業

E 自治体	団体の理事会、会員向け講習会、社員研修等において、当自治体の現状について説明、また、社員への普及啓発を養成。（対象：商工会議所、経営者協会、日本経済団体連合会、中小企業団体中央会、工業団体連合会、その他民間企業）
F 自治体	7th I C A A Pを意図して、ホテル、旅館協会の理事会やタクシー協会への会合に出張して、出前でエイズの現状の解説やH I V陽性者を含めた歓迎を準備。
G 自治体	教職員、企業の健康管理担当へのエイズに関する研修
H 自治体	事業所（外国人）への健康教育。パンフ配布等。希望時検査可能。

青少年対策におけるPTAの関わりについて（木原雅子委員）

（１） 家庭内における取り組み

- 家庭内の日常会話および通常のかかわりの充実
- 自分にもリスクがあることを伝える
 - ・ パンフの手渡しなど

（２） 家庭外（地域）における取り組み

- 学校における予防教育の支援→学校関係者との連携
- 他の保護者との連携（保護者会に来ない親への情報伝達）
- 保護者むけ勉強会の開催（親子パンフを使用）
- 学外の相談窓口の設置→医療機関等との連携
- 性情報の氾濫への対処

エイズ対策における青少年対策に関する提案（木原雅子委員）

エイズ予防教育の特徴

- 事前の調査と事後の評価を行うもの（科学的な証拠に基づく教育）
- 発達段階・行動段階に即した適切な啓発普及を行うもの
- 自分にもリスクがあることを知ってもらうため、地域性を考慮したメッセージ、セクシャルネットワークの考え方、身近な情報（一般の性感染症・中絶など）を加えたもの

エイズ予防教育における連携体制

- 学校における集団教育は、保健所等からの情報提供を受けた学校の教師が実施
- 保健室においては一部ハイリスク層の子供に対する個別指導/情報提供
- ハイリスク層の子どもに対する学外（保健所・医療機関・主任児童員等）の相談窓口の紹介および連携

今後の取り組みの方向性

- 保健所の役割は、「学校教育の側面支援」「ハイリスク層の受け皿（相談窓口）」「地域（保護者含む）への予防啓発」「検査体制（STDを含めた）の整備拡張」
- 学校の役割は、「基本的予防教育の実施」「学校内の環境作り」「保護者（PTA）との連携」「地域（保健行政、医療機関等）との連携」
- 上記二者の役割分担を明確にし、教育委員会（文部科学省）、PTAも含めて連携していくことが必要

— しがえ

○ 外国人

〔検査・相談事業〕

I 自治体	エイズ予防月間中の土曜日に、検査室に英語・タイ語の通訳を配置。
J 自治体	JFPAエイズサポートラインの開設（平成17年予定／エイズ予防財団からシステム提供。8か国語の24時間自動音声対応。）
K 自治体	外国語電話相談、外国語による検査前、検査後相談（ポルトガル語、スペイン語、タイ語、英語）
L 自治体	県で夜間検査時間帯の電話によるポルトガル語通訳サービスの実施、ポルトガル語通訳サービス、外国語のパフレットの活用
M 自治体	「一日ブラジル領事館と市民相談会」でHIV休日検査（問診票・案内看板などをポルトガル語に翻訳。通訳2名配置。）
N 自治体	外国語によるエイズ電話相談をNPO法人に委託して実施。また、外国語での電話の相談・問い合わせには、国際交流センターの通訳を入れた3者でのやりとりができるトリオフォンを設置。
O 自治体	市で外国人相談実施

〔広告〕

P 自治体	母国語新聞への広告掲載（6か国語9紙） エイズ予防月間事業についての周知
-------	-----------------------------------------

〔パンフレット・リーフレット〕

Q 自治体	英語版若年者向け啓発冊子作成
R 自治体	国際交流サロン等に7ヶ国語のパフレットを配布
S 自治体	外国語パフレットの利用
T 自治体	市として、外国語版検査結果説明パフレットを作成（予定）
U 自治体	外国語（英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語、韓国語、タガログ語）の予防パフレット配布。英国版結果表の作成。
V 自治体	市のポルトガル語版広報誌を通じてPR。 ポルトガル語版のポスターを製作し配布。リーフレットを制作中。
X 自治体	「生活ガイド」（英語・中国語・ポルトガル語版）によりHIV相談・検査の情報提供。
X 自治体	戸籍窓口に外国語リーフ配布
Y 自治体	外国人向けのエイズパフレットを県で作成
Z 自治体	検査内容について英語版のものを提供。
AA 自治体	エイズ予防財団提供8ヶ国語リーフレット配備

自治体における普及啓発の主な取組 〔外国人・CSW〕

〔通訳〕

AB自治体	月1回、英語・タガログ語の通訳可能な方（雇上）を配置
AC自治体	通訳可能な職員を配置
AD自治体	夜間検査、休日即日検査でポルトガル語通訳を試行的に配備。今後、恒常的な配備を検討。
AE自治体	診療の際の通訳派遣
AF自治体	検査時の通訳派遣

<出前講座>

AG自治体	事業所（外国人）への健康教育。パンフ配布等。希望時検査可能。
AH自治体	外国人研修生（商工会関連）への講話

（参考：エイズ予防財団）

リーフレット	8か国語のリーフレットの作成・配布
電話相談	エイズサポートライン（8か国語電話自動応答システム）
団体支援	○社会的支援事業（委託先：CRIATIVOS-HIV・STD関連支援センター） * HIV感染者とその家族のミーティング * 医療機関や行政への付添・通訳 * 電話・FAX・メールによる相談 ○日本エイズストップ基金
通訳者向け研修会	* HIV感染症の基礎知識と医療体制 * HIV感染症の海外動向（在日外国人の母国を中心に） * 医療通訳の役割 * 患者・感染者への心理・社会的支援 * グループ討議

○ CSW

AI自治体	○性風俗産業従事者向け勉強会（CSWの団体による年6回のエイズ及び性感染症関連の勉強会を支援） ○ハッテン場のオーナー向け講習会
AJ自治体	FISH BOOKをCSWの団体（SWASH）から購入し、特殊浴場協会を通じ、該当店舗200か所、都市部の病院、診療所10か所に配布。 ※特殊浴場協会とは協力可能であるが、協会が勧められない店舗においては実態がつかめず、アプローチができない。
AK自治体	風俗店に冊子配布
AL自治体	特殊浴場の経営者、従業員を対象とした出張講話

外国人移住労働者とHIV/AIDSに関する国家政策についての提言

2004年12月4-5日

現在日本でエイズを発病する人の中で4人に一人が外国人移住労働者(migrant、以下「移住労働者」とする)です。しかし、移住労働者は、日本語が不自由である上に生活が不安定であることが多く、適切な支援がされなければ医療にかかることが困難です。私達は、このような移住労働者に対する支援の不足が在日外国人の間でのHIVの流行に密接に関わっていると考えます。このシンポジウムでは、日本及び移民の送り出し国の医療関係者・NPO職員・市民などが、HIVに感染した移住労働者の健康を改善するために論議を行いました。そこで、以下のような点が重要であるとの見解をもちました。

1. 医療通訳が配備されインフォームドコンセントに基づいた医療が実施されること
2. 心理・社会相談員へのアクセスが保障され、生活背景を尊重した相談がなされること
3. 緊急医療は人権であり、診療拒否が起きないための、国籍、在留資格に拘わらず、医療制度が整えられる必要があること
4. 送り出し国と受入れ国の双方の関連する団体がネットワークを結び緊密な連携が行われること
5. ARVを含めたHIV医療へのユニバーサルアクセスの実現が今後検討されるべきであること
6. コミュニティーのニーズに基づいた予防活動、及びHIV/AIDSに関する情報提供の活動に対して、政府が適切な資金提供を行うべきこと

移住労働者へのHIV医療が改善されることは、人道的な立場からも公衆衛生の向上の立場からも、緊急の課題です。このシンポジウムの議論を踏まえて今後関係者のますますの議論がなされ、移住労働者の対するHIV/AIDS対策ができる人材の育成を含む、具体的な行動が実践されることを期待します。

国際シンポジウム

「HIV/AIDSとともに生きる在日外国人との
共生・支援のあり方を考える」

参加者一同

本シンポジウムは、財団法人倶進会の助成により、日本のNGO4団体((特活)アフリカ日本協議会、(特活)アース仏教国際協力ネットワーク、(特活)クリアティーボスHIV/STI関連支援センター、(特活)シェア=国際保健協力市民の会))により、2004年12月4-5日の二日間、慶応大学三田キャンパスで開催された。

H I V抗体検査の概要

実施機関	区 分	費用	保険証	備 考
自治体	保 健 所	無料	不要 (匿名)	○平日昼間の検査 ○夜間・休日検査 ○イベント検査 ※迅速検査の導入
	検査室など	無料	不要 (匿名)	○「南新宿検査・相談室」など ※迅速検査の導入
医療機関	拠点病院	有料	必要	「エイズ治療拠点病院におけるH I V抗体検査等事業」 —都道府県が拠点病院に検査費用の一定額を補助 (うち 1/2 は国庫補助) することで、受検者の費用負担の軽減を 図る。
	一般医療機関	有料	必要	

自治体におけるH I V抗体検査－利便性向上に向けた取組状況

(平成16年10月20日現在)

	迅速	夜間	休日
1 北海道	○		
2 青森県			
3 岩手県		○	
4 宮城県			
5 秋田県	○	○	
6 山形県			
7 福島県		○	
8 茨城県			
9 栃木県	○	○	○
10 群馬県		○	
11 埼玉県		○	
12 千葉県		○	
13 東京都		○	○
14 神奈川県		○	
15 新潟県			
16 富山県		○	
17 石川県		○	
18 福井県			
19 山梨県		○	
20 長野県		○	○
21 岐阜県			
22 静岡県		○	
23 愛知県		○	○
24 三重県		○	
25 滋賀県	○	○	
26 京都府			
27 大阪府		○	○
28 兵庫県			
29 奈良県			
30 和歌山県			
31 鳥取県	○		
32 島根県			
33 岡山県			
34 広島県			○
35 山口県	○	○	○
36 徳島県			
37 香川県			
38 愛媛県			
39 高知県			
40 福岡県			
41 佐賀県	○	○	○
42 長崎県			
43 熊本県			
44 大分県			
45 宮崎県		○	
46 鹿児島県			
47 沖縄県			

	迅速	夜間	休日
48 札幌市		○	○
49 仙台市		○	
50 さいたま市		○	
51 千葉市		○	
52 横浜市		○	○
53 川崎市			○
54 名古屋市	○	○	○
55 京都市			
56 大阪市		○	○
57 神戸市		○	
58 広島市		○	
59 福岡市		○	○
60 北九州市		○	
61 旭川市	○	○	
62 秋田市	○	○	
63 郡山市		○	
64 いわき市		○	
65 宇都宮市			○
66 川越市		○	○
67 船橋市		○	
68 横須賀市		○	
69 相模原市			
70 新潟市			○
71 富山市		○	
72 金沢市		○	○
73 長野市	○	○	
74 岐阜市			
75 静岡市		○	
76 浜松市			○
77 豊田市		○	○
78 豊橋市		○	○
79 岡崎市		○	
80 高槻市			
81 堺市		○	
82 姫路市		○	
83 奈良市		○	
84 和歌山市		○	
85 岡山市		○	○
86 倉敷市			
87 福山市		○	○
88 高松市			
89 松山市		○	
90 高知市		○	
91 長崎市			
92 熊本市		○	○
93 大分市	○	○	○
94 宮崎市		○	
95 鹿児島市			

	迅速	夜間	休日
96 小樽市			
97 函館市	○		
98 東大阪市			
99 尼崎市		○	○
100 西宮市		○	
101 呉市		○	
102 下関市		○	○
103 大牟田市			
104 佐世保市		○	
105 千代田区			
106 中央区			
107 港区			
108 新宿区			
109 文京区			
110 台東区			
111 墨田区			
112 江東区			
113 品川区			
114 目黒区			
115 大田区			
116 世田谷区			
117 渋谷区			
118 中野区			
119 杉並区			
120 豊島区			
121 北区			
122 荒川区			
123 板橋区		○	
124 練馬区			
125 足立区			
126 葛飾区			
127 江戸川区	○		

計	14	63	27
割合 (%)	11.0	49.6	21.3

<迅速>

迅速検査キットを使い、即日
で結果を返している自治体

<夜間>

保健所閉所(17:00)以降に検
査を実施している自治体

<休日>

土日に検査を実施している自
治体